

t a k e 日記

2010年02月20日(土) 23:32 足跡化石の型どり

昼食の後 須城谷へ

先日見つけた鹿の足跡化石の型を採りに行きました

先日見つけた鹿の足跡化石です



良く練り合わせたシリコンを足跡に押しつけます



そしてこんな感じで型を取ります

この状態で約一時間硬化を待ちます



そしてシリコンをはがして出来上がったのがコレ！  
良い感じに出来上がりましたよ



昇順|降順 コメント

1: 2010年02月20日(土) 23:43 t a k e さん

そして今回は、色々な足跡らしき化石を見つけました

一体何の足跡でしょうか

もう少し確認してみる必要がありそうです



2





2010年02月22日(月) 09:23 ひらささん

今回型取りに使用したのは、美術品のレプリカを作るのに使用する特殊なシリコンで、原型を破壊することなく、完璧な型取りが出来るものです。

これまで使用していたエポキシ樹脂は、硬化すると地層に張り付いてしまい、破壊を前提に使われていましたが、このシリコンでは原型も綺麗に残る画期的な素材です。(ちょっと高価です)

上石津には、それだけの投資をしても良い、見事な足跡化石があります。

120万年前の上石津には、今のものとは違う古いタイプの象や鹿が、今のセレンゲティーのように繁栄していました。

t a k e 日記

2010年 02月 23日(火) 08:50 パソコンの壁紙を足跡化石に

須城谷の足跡化石が気になってパソコンの壁紙を足跡化石にしました  
ひらささんからいただいた足跡化石調査報告書をじっくり読んだり、ネットで調べたり、  
昨日は帰りに高島屋の三省堂でワニの図鑑や化石の本を見てきました  
調査報告書みると象と鹿しか書かれていません  
東海層群や古琵琶湖層の地層から亀山でワニの大腿骨の化石が見つかったり伊賀盆地から  
ワニの足跡化石が見つっています  
ワニの図鑑を見るとワニの足は、鳥に似ています  
ワニもクロコダイルは細い感じ  
アリゲーターは、太い足ですね  
化石をよく見ると足と足の真ん中付近がそれとなく窪んでいてそう見えてきます(笑)  
アリゲーターっていうとアメリカアリゲーターの他に中国に揚子江アリゲーターってのが  
います、これは小型です。  
須城谷には、現在は絶滅してしまったメタセコイヤの種子や葉っぱが沢山出てきています。  
メタセコイヤは、生きた化石といわれて中国で発見され最近では日本も持ち込まれ、我が  
家にも以前植えられていました。  
揚子江にいるアリゲーターと同じようなワニが遙か昔上石津にも住んでいた。  
湖に流れ込む堆積土砂のあるほとり付近が須城谷のようです。  
いよいよ楽しくなってきましたね。  
象の足跡せんべいやワラジカツからアリゲーターの足跡、これはモミジにも似てるね  
地域活性化に繋がる話題ですよ

昇順|降順 コメント

1: 2010年 02月 23日(火) 09:31 ひらささん

足跡化石調査団の時も、みんなワニの足跡は絶対有るはず！という意識で調査しましたが、  
その時は見つかりませんでした。

クリーニング前のあの窪みをワニかも？ってなるには、絶対ある！という意識で見ないと、  
ただの窪みです。

一眼ではないので写りは悪いですが、見つけたときの状態です。

砂が詰まっていて、何がなんだか分からない状態ですね。(笑)

まだワニ類だという結論には至ってないので、かも？の段階です。(^^)



ひらさ日記

2010年02月23日(火) 09:12 資料(^^)

このところ、上石津の須城谷の化石のことで頭がいっぱい！(^^;) takeさんの日記でも見ていただいています。 . . . 昨夜は、ワニの足跡と植物化石についてう～ん . . . でした。

アリゲーターの足型 (甲西市足跡化石調査報告書より)



国内で見つかったワニの足跡化石 (甲西市足跡化石調査報告書より)



### 須城谷で採集できる植物化石



左の小さいのがエゴの種子、その右 2 個はメタセコイアの球果(松ぼっくり)右の写真の 2 個は本当の松ボックリです。

これらの年代は約 1 2 0 万年前なので、亜炭の状態です。

木工ボンドをしみこませて、簡単に保存処理ができます。

以上、take さんの日記と合わせてみてくださいね(^^)

### 昇順|降順 コメント

1: 2010 年 02 月 24 日(水) 08:15 tonko さん

木工ボンドってどんな成分で作られているんですか？

とんこもススキの穂を保存するときにボンドを水で薄め

コーティングして穂の開きを押さえています

カビもこないでいつまでも綺麗な状態です。成分はどうなっているのかなあ？

意味はないのですが・・・ふと思いました。

2: 2010年02月25日(木) 13:54 ひらささん

tonkoさん

木工ボンドの主成分は酢酸ビニル樹脂です。乾燥すると非常に強力な接着剤ですが、水に浸かると吸水して強度を失います。

某県博物館のオオミツバマツの化石は、業者さんが樹脂(パラロイド?)をしみこませて保存処理・・・とのことですが、樹脂がしみこむ事は無く、表面の補強だけになりますから、内部の乾燥と共に展示されているような状態になってしまいます。木工ボンドも組織にしみこむのは微量ですが、マッボックリの鱗片の奥深くまで行き渡り、乾燥と同時に強力な接着力と保存効果を発揮します。

実験的に、金沢の120万年前の岩石に5倍に薄めた木工ボンドを浸透させたところ、5ミリの厚さまで浸透して強力な補強処理が出来ました。

また、乾燥すると透明になり、ツヤが出ないので、化石の補強保存処理には、最高の素材です。

tonkoさんの使い方は正解ですね。

ひらさ日記

2010年02月25日(木) 12:07 足跡化石の続報(^^)

takeさんと発見した上石津上多良須城谷の足跡化石の中間報告です。(^^)

最初にtakeさんが見つけた鹿の足跡化石(2個)は同じ鹿の足跡であることが判明しました。前足がついた後、そのすぐ後ろに後足がつき、前足の足跡が変形を受けたとの結論が出ました。



takeさん発見の鹿の足跡化石

ワニらしき足跡について、あの博物館から一報がありました。要約すると、もう少し複数の足跡や尻尾を引きずった痕があれば、ほぼ確定しますが・・・これは否定するものではなく、もう少し現地調査して、これを確信につなげたいとの意向です。



ワニらしき足跡化石



一 昨年の鹿の角化石についても、同時進行で三重県、滋賀県の化石とあわせて研究を進め、東海、近畿を見渡した報告書の作成を進めることになりました。

一 昨年に見つかった鹿の角化石（ひらさ蔵）

昇順|降順 コメント

1: 2010年02月25日(木) 16:38 t a k e さん

もう少し周りを確認すれば、出てくるでしょう、狭い場所で今までに出てないからね、付近をじっくりまた見ましょう

2: 2010年02月25日(木) 17:00 ひらささん

あの場所なら、少し掘削してクリーニングできるかも知れません。写真では、右側のコケのついた部分を取り除くことを検討してみたいです。

もう一つ、像の足跡が隠されているように思います。

二つの足跡の上の大きな円形の窪みですが、奥に爪の跡が少なくとも4個確認できます。

3: 2010年02月26日(金) 12:58 ひらささん

ひらさの師匠からメールが入りました(^^;)

師匠もう～んです(^^)

写真からは何ともいえませんね～ 鹿のようにも見えるし・・・  
明日から富山で調査があるので、連絡を取り合ってやりましょう！でした(^^)

多賀の阿部さんは、鹿の角の産出地を見ながら、一度現地を見たいとのことでした。

近いうちに計画したいと思います。